

Rihoの  
ドイツ便り

## 原発付近で、 小児ガンリスク倍増

No.57

原発の周囲5キロ圏内に住む5歳未満の子どもは、ガンや白血病が通常の倍…。福島原発の事故を受け、ドイツ連邦放射線防護庁が2007年に発表したKiKK調査（Kinderkrebs in der Umgebung von Kernkraftwerken 原発周辺の小児ガン）が改めて注目を集めている。これは稼働中の原発16基周辺を1980年から2003年まで調べたもので、5歳未満の白血病やガンの国平均の発生率は4,735人中17人だが、5キロ圏内では1,592人中37人だった。この結果は論争を呼んだが、連邦環境省は2008年「原発付近5キロ以内に住む小児ガンは統計的に見て多いという調査結果は正しい。しかし原発の放射線によるものだと説明できない」とコメント。放射線防護庁は調査の信頼性について専門家に鑑定を依頼し、2010年9月、特性リスクの証明など結果の解釈に問題があるとしながらも、調査の実施方法と結果については妥当だと結論づけた。

4月26日はチェルノブイリ原発の事故から25年。ドイツ全国12の原発付近で反原発デモが開かれ、総勢10万人が参加。私もハーメルン郊外のグローンデ原発（写真）へ家族ででかけた。最寄駅まで3キロぶらぶら歩き、遠足気分。1万人が参加した。晴れた日で気持ちがよく、演説をはじめ音楽や子どもコーラスも。けれど「日本が死ぬ」というプラカードを見たときは、胸がずきんとした。5キロ圏内というと、歩いてきた3キロの道のりよりもっと広範囲になる。道中、きれいに手入れされたうちが並んでいた。その住民たちすべてが日々放射能にさらされ、子どもは死に至る可能性があると思ふと思ひ至り、急に恐ろしく感じた。

そして5月4日、日本の敦賀原発2号機と同じく、グローンデ原発でも燃料に問題があり冷却水の放射能濃度が高くなったことが明らかになった。イーオンによると「世界でもトップテンに入る生産的な原発」であるはずなのに、この原発まで自宅から42キロ。何かあったらひとごとではない。ちなみにドイツの原発17基のうち、点検や国の政策により現在11台が停止。原発業界は「原発を停めたら電気が足りなくなる」といい続けてきたが、原発の発電量の6割が減った今、電気不足の気配はない。

[http://doris.bfs.de/jspui/bitstream/urn:nbn:de:0221-20100317939/4/BfS\\_2007\\_KiKK-Studie.pdf](http://doris.bfs.de/jspui/bitstream/urn:nbn:de:0221-20100317939/4/BfS_2007_KiKK-Studie.pdf)  
KiKK調査について。12から18ページ目は英語で、概要が記されている。

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

### ドイツで子育て♪

ドイツのデモは気軽に参加できるが、特に反核デモで親子連れをよく見かける。3歳半の明もデモやグリーンピースのイベントに参加し、旗を持って歩いた。「フクシマ」という言葉を覚え、車で遊ぶとき「ここはフクシマ。ここはフクシマじゃない、ここはフクシマ」と床を指さすように。「フクシマ」は「事故」と同義のよう。デモでよくきく「Abschalten（原発停止）」も覚え、ときどきひとりつぶやいている。

